

第24回エコフロンティアかさま環境保全委員会の結果について

○ 環境モニタリング結果の概要と特徴について

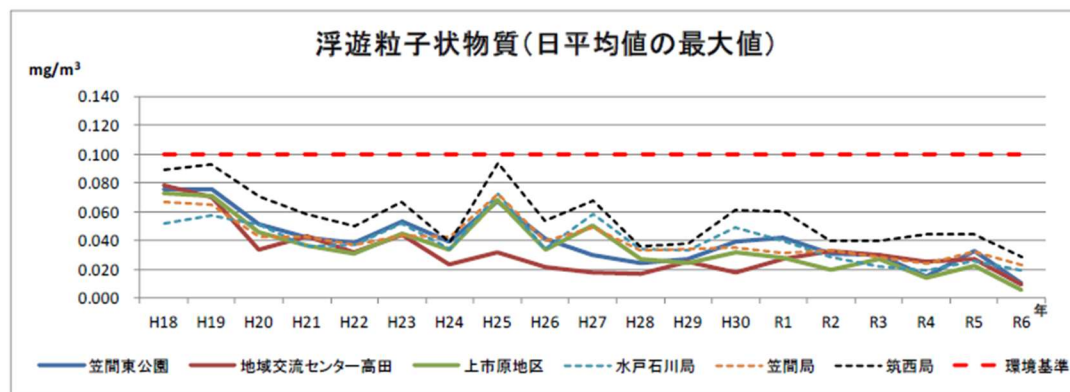
大気、水質、土壌等の環境モニタリングの結果、ほとんどの項目で環境基準値を下回っており、施設稼働による環境への影響は見られておりません。

1 大気

(1) 環境大気

周辺大気環境(笠間東公園、地域交流センター高田、上市原地区)の四季調査(年4回測定)

- ・二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、ダイオキシン類は、環境基準を下回っていました。



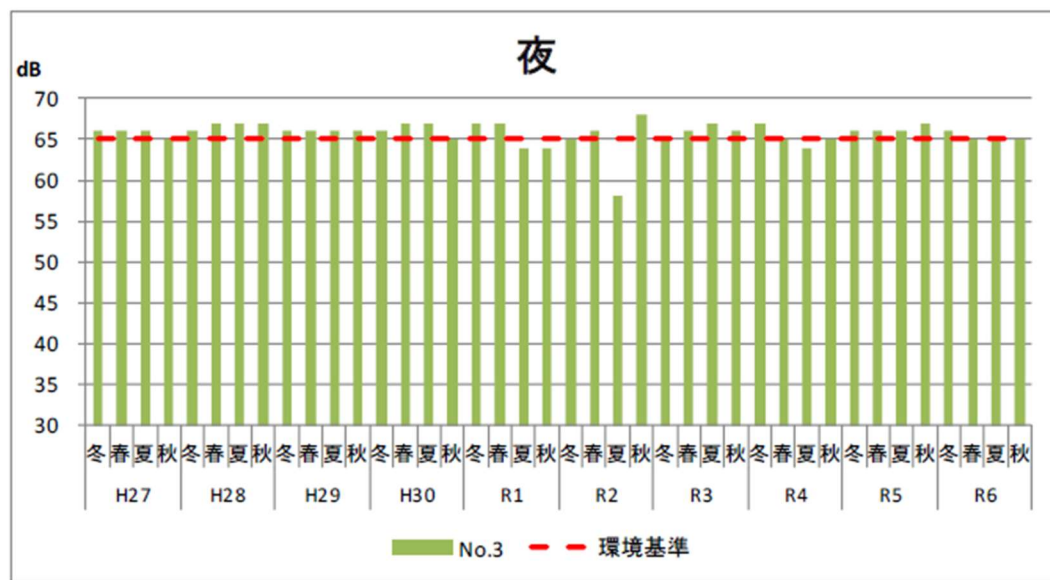
2 騒音・振動

(1) 環境騒音（敷地境界付近の民家2か所で年4回測定）

- ・ 冬季の夜間、夏季の昼間・夜間に環境基準を上回っていましたが、ほとんどの時間帯で環境基準を下回っていました。なお、夏季に環境基準を上回った原因は、昆虫の鳴き声によるものと考えられます。

(2) 交通騒音（不動前バス停付近で年4回測定）

- ・環境基準をわずかに上回っている時期がありましたが、開業前と同様なレベルでした。

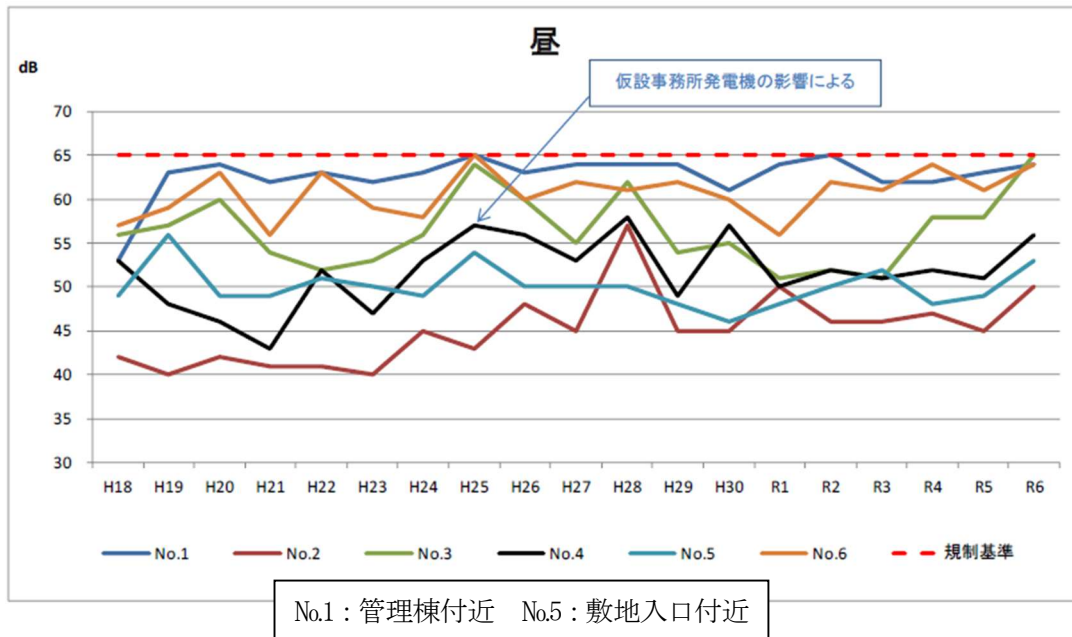


(3) 振動（年4回測定）

- ・環境振動・道路交通振動とも、開業前と同様なレベルでした。

(4) 施設内騒音・振動（施設内6ヶ所で年1回測定）

- ・すべての時間帯で基準値以下となっていました。



3 悪臭（敷地境界で8月に測定）

- ・敷地境界における悪臭物質は、規制基準を下回っていました。

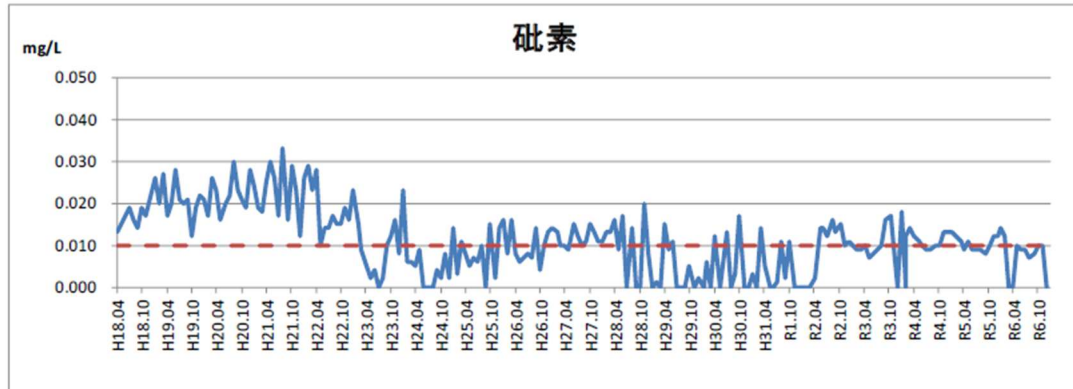
4 最終処分場発生ガス（処分場内10ヶ所で年4回測定）

- ・メタン及び硫化水素が一時的に高くなった箇所がありますが、その他については発生量が少ない状況にあります。

5 水質

(1) 場内モニタリング井戸（4井戸で月1回測定）

- ・No. 3井戸を除いた3井戸では、すべての項目で環境基準を下回っていました。
- ・No. 3井戸では、開業前からヒ素が環境基準を上回っていますが、地質の影響による自然由来のもので、近年は環境基準値付近で横ばいとなっています。



- ・No. 3井戸の鉄濃度は、平成23年に一時上昇した後、10～20mg/L程度に減少し、近年はほぼ横ばい傾向にあります。



(2) 周辺民家モニタリング井戸（6井戸で年1回測定）

- ・2井戸で、一般細菌等が水道水の基準を上回っていますが、その他は基準を満たしていました。

(3) 事業場雨水排水（月1回測定）

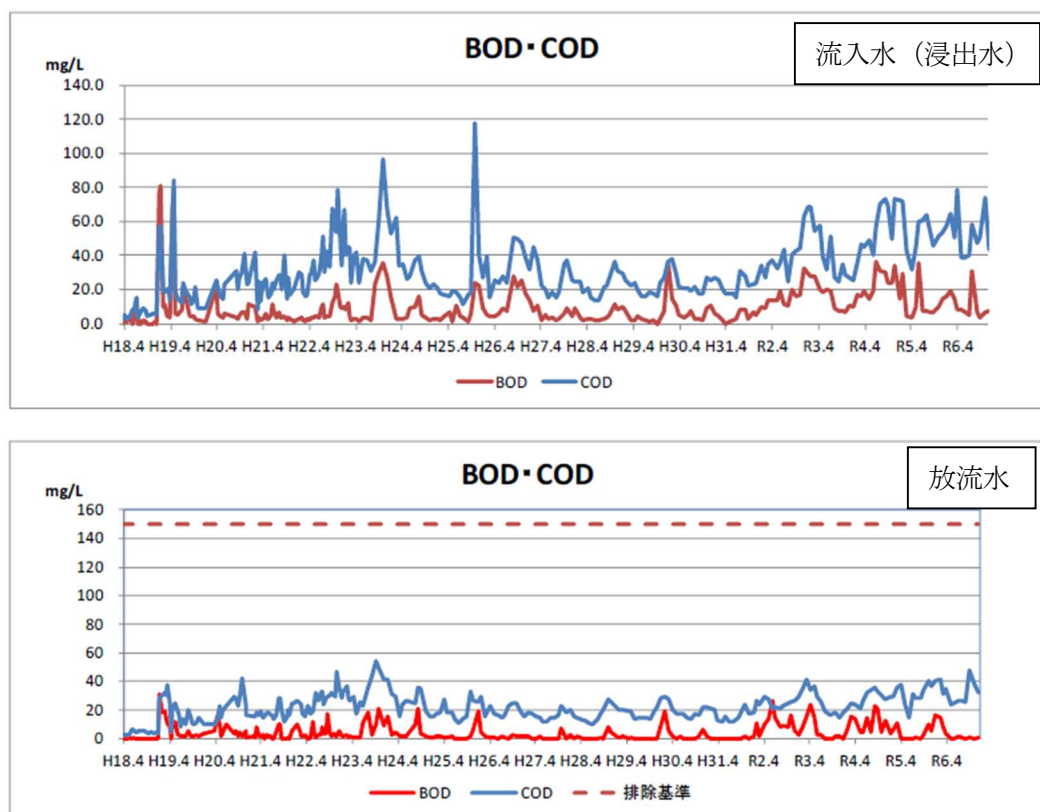
- ・全ての項目で、排水基準を下回っていました。塩化物イオンが、平成25年12月ごろから高くなり、月によって変動する傾向が出ていましたが、近年は一定の濃度範囲で推移しています。

(4) 最終処分場地下水（月1回測定）

- ・全ての項目で、環境基準を下回っていました。平成25年10月頃から、塩化物イオンがやや高くなることが見られるようになっており、令和6年も同様の傾向を示しています。

(5) 最終処分場浸出水（月1回、流入水と処理水について測定）

- ・放流水は、すべての項目で笠間市との協定値を下回っていました。



(6) 河川水質・底質（2ヶ所で月1回測定）

- ・河川水質において、大腸菌数及び溶存酸素が環境基準を上回っていますが、その他の項目は、すべて環境基準値を下回っていました。

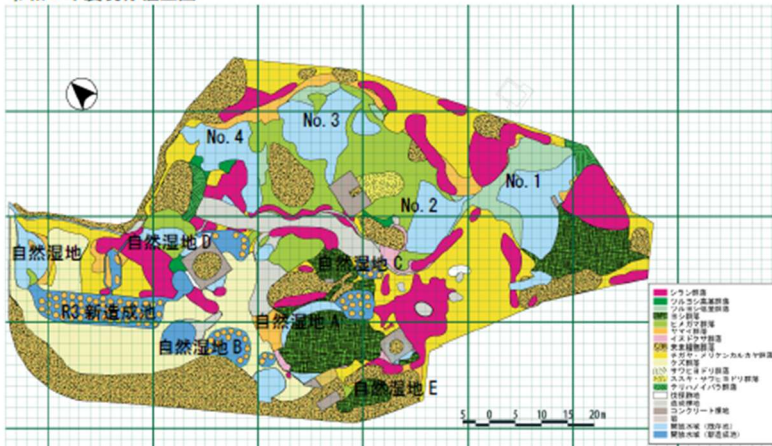
6 沈下量（年2回、底盤沈下量5カ所、表面部沈下量8カ所を測定）

- ・最終処分場底盤の沈下量は、大きな変動はなく安定した状態にあります。また、埋立終了時期を見据え、埋立地盤表面部の沈下状況を調査した結果、大きな変動はなく安定した状態にあることが確認されました。

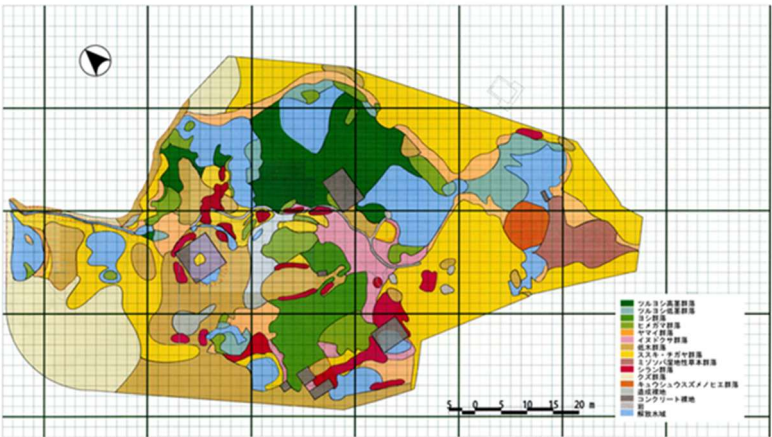
7 現況保全地における貴重種の保全

- ・シランは昨年と概ね同様の分布状況であり、維持されていました。ハッチョウトンボ、オゼイトンボ等は、近年新たに整備した造成池で確認されています。

令和6年度現存植生図



(参考)平成19年度現存植生図



8 放射線量・放射性セシウム濃度（週1回測定）

- ・場内9か所で測定した放射線量は、原子力規制委員会が公表している笠間市役所の測定結果と同程度でした。
- ・浸出水、放流水、処分場地下水及び観測井水の放射性セシウムについては不検出でした。

